

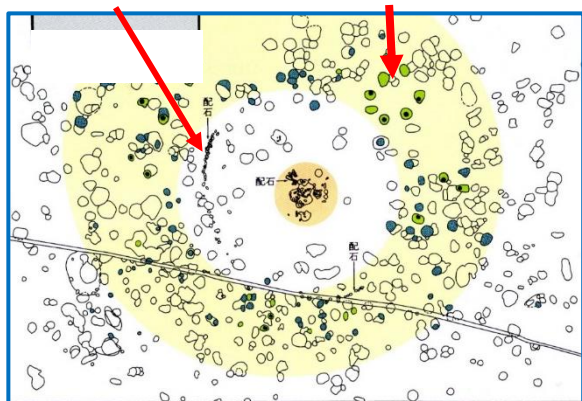
企画展から、六ヶ所村で発掘された縄文時代の遺跡から読み取れる、当時の様子や縄文人の思いを時代区分ごとに7つのメッセージとして、ご紹介します。縄文時代後期からのメッセージ6です。

### メッセージ 6

## 集落の分散化と墓のあい方の変容期へ

### 1 祈りの場を伴ったムラ 大石平(1)遺跡

こじょう はいせきいこう 弧状の配石遺構  
直径 40 cm～60 cmの木柱跡



配石遺構図（縄文広場）



手形足形土製品



赤漆彩色切断土器

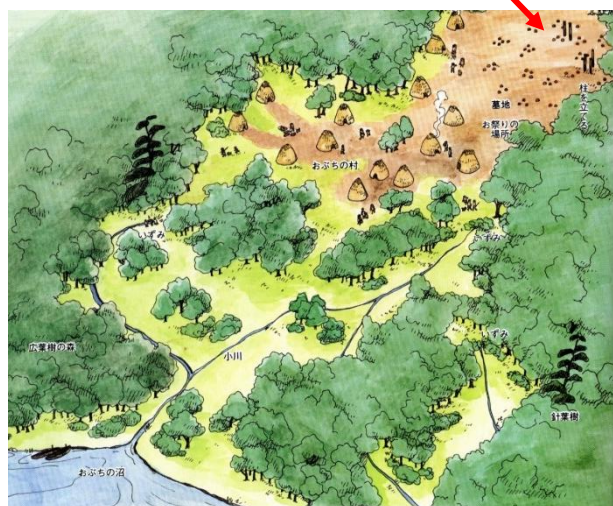
縄文時代後期は、気候が寒くなり海退現象が進み、大規模集落が分散し、環状列石や配石遺構、石棺墓や甕棺、漆文化や漁具、祭祀具が発達します。

大石平（1）遺跡は、中期末葉から後期にかけて約 500 年続いた集落跡で、後期の十腰内Ⅰ式期には竪穴住居跡が 7 軒から 28 軒に増加しています。

このムラの中央部には、直径約 24mの円形で直径 20～40 cmほどの礫（石）を環状にめぐらせた配石遺構（縄文広場）があり、外側には、円形に並ぶ木柱（直径約 40 cm）の巨大木柱群と約 500 基の土坑群が、幅約 12m で配置されています。この縄文広場は祭祀や葬儀などの場と墓域を示していると考えられます。「靈魂の宿るもの」を入れたと考えられている赤彩切断蓋付土器 10 個体も出土しています。

### 2 墓域を持ったムラ 上尾駁(2)遺跡

墓地広場と木柱



上尾駁遺跡の集落想像図

上尾駁のムラは、はじめは 6 軒、その後 9 軒、多い時で 27 軒、最後は 4 軒の 4 期からなり、急激に増えた原因は、自然増（分家）なのか、社会増（移住者）なのかかわからないが、大石平遺跡でも同じような増加がみられることから注目すべき社会現象です。墓地の広場には、数十本の木柱（トーテムポール）が立ち、南西側には竪穴住居跡が広がり、集落を形成しています。鐸形土製品と円板状土製品が、土壌や各家々から一個ずつ出土しています。6 つの泉が、現在でも確認できます。



鐸形土製品と円板状土製品